

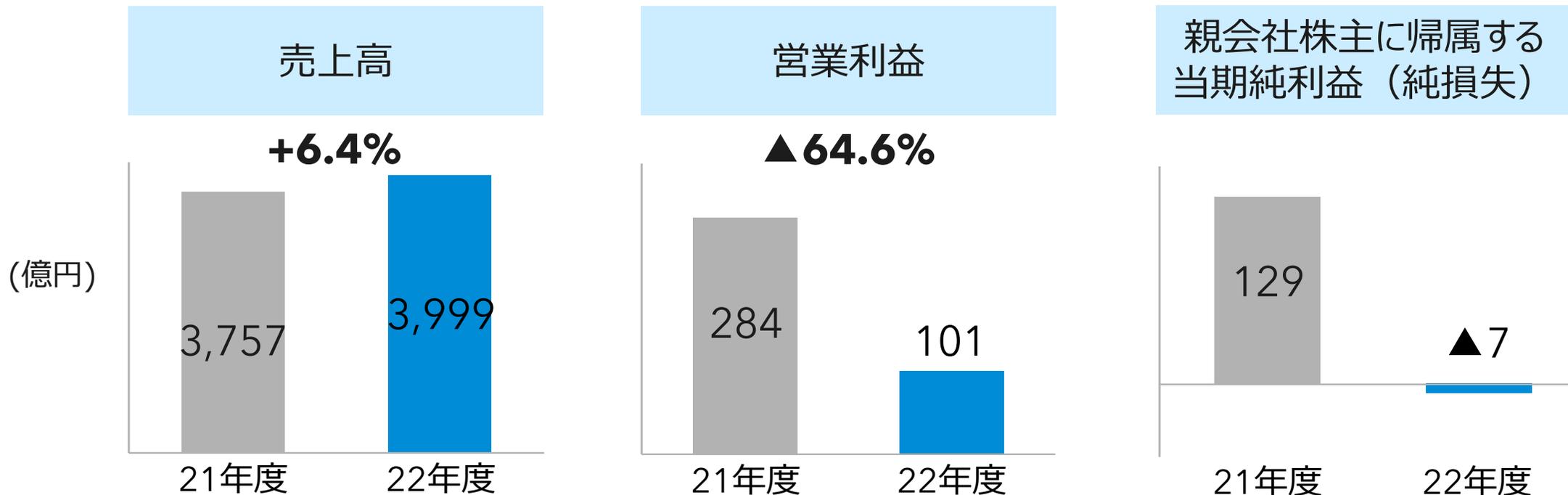
2023. 5.11

# 2022年度決算説明

東洋紡株式会社

## 2022年度 実績

工業用フィルムの市況悪化や新機台立上げ費用増に加え、原燃料価格高騰の影響が大きく、製品価格改定を進めるも増収減益。不織布の減損など特損 157 億円を計上し、当期純損失 7 億円



## 2023年度 予想

工業用フィルムなどの市況回復に加え、一層の価格改定、要改善事業の対策を進めることにより、営業利益 150 億円（前期比約 1.5 倍）、当期純利益 40 億円を予想

## 2022年度

### ■ 世界経済は減速

- ・ウクライナ情勢などの影響による原燃料価格の高騰
- ・欧米の金融引締め政策、中国のゼロコロナ政策（ロックダウン）

### ■ 国内は緩やかな景気回復にとどまる

- ・年度後半以降は、コロナ禍から経済正常化
- ・原燃料価格の高騰、半導体などの原材料供給不足による自動車生産の回復遅れ

## 2023年度

### ■ 世界経済

- ・中国は、ロックダウン解除により経済活動が再開し、景気は緩やかに回復
- ・欧米は、インフレ圧力の高まりを受けた金融引締め政策により、景気は減速する懸念

### ■ 国内経済

- ・原燃料価格は、22年度より下落するも、高水準で推移する見込み
- ・新型コロナウイルス感染症が収束し、内需を中心に、緩やかな景気回復の見込み

# 決算サマリー | PL

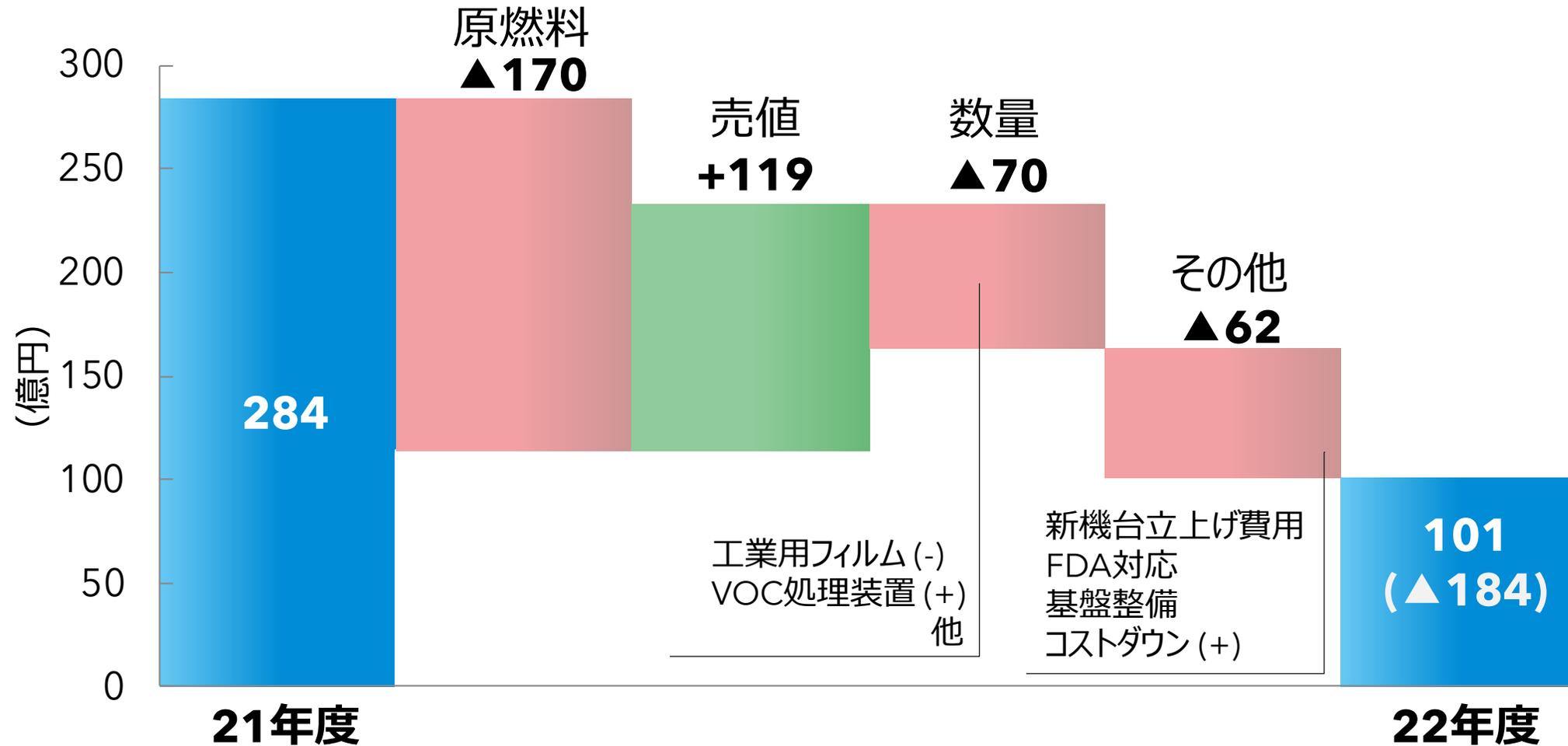
**TOYOBO**

(億円)

	20年度	21年度	22年度	増減		直近予想 (23/02)
				金額	率	
売上高	3,374	3,757	<b>3,999</b>	+242	+6.4%	4,000
営業利益	267	284	<b>101</b>	▲ 184	▲ 64.6%	110
(率)	7.9%	7.6%	<b>2.5%</b>	-	-	2.8%
経常利益	207	231	<b>66</b>	▲ 165	▲ 71.5%	75
特別利益	6	65	<b>98</b>	+32	-	-
特別損失	158	148	<b>157</b>	+9	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	42	129	<b>▲ 7</b>	▲ 135	-	65
EBITDA* <small>* 営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)</small>	458	485	<b>291</b>	▲ 194	▲ 40.0%	305
EPS (円)	47.3	144.8	<b>▲ 7.4</b>	-	-	73.1
ROE* <small>* 当期純利益 ÷ 期首・期末平均自己資本</small>	2.3%	6.8%	-	-	-	-
ROIC* <small>* NOPAT ÷ (有利子負債 + 純資産)</small>	5.0%	5.1%	<b>1.7%</b>	-	-	-

- 特別利益 火災事故の受取保険金 56 億円、投資有価証券売却益 29 億円
- 特別損失 減損損失 98 億円（不織布マテリアル事業などの事業用資産や休止予定資産など）
- 配当は、一株あたり 40 円（予定）

# 営業利益の増減要因



	20年度 通期	21年度			22年度		
		上	下	通期	上	下	通期
為替レート (円/US\$)	106	110	115	112	134	137	135
国産ナフサ (千円/kl)	31	51	63	57	84	70	77

		(B)	(A)	(億円)
	21/3末	22/3末	23/3末	増減 (A)-(B)
総資産	4,912	5,178	<b>5,889</b>	+711
現預金	347	272	<b>607</b>	+335
棚卸資産	763	960	<b>1,219</b>	+259
有形固定資産	2,246	2,276	<b>2,402</b>	+127
純資産	1,886	1,971	<b>2,214</b>	+243
自己資本	1,857	1,949	<b>1,896</b>	▲ 53
うち利益剰余金	644	747	<b>705</b>	▲ 42
非支配株主持分	29	23	<b>318</b>	+296
有利子負債	1,870	1,912	<b>2,294</b>	+382
D/E レシオ	1.01	0.98	<b>1.21</b>	-
Net Debt / EBITDA倍率*	3.3	3.4	<b>5.8</b>	-

\* (有利子負債 - 現預金) <期末> ÷ EBITDA

(億円)

	21年度	22年度	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	171	<b>78</b>	▲ 93
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 246	<b>▲ 360</b>	▲ 114
フリー・キャッシュ・フロー	▲ 75	<b>▲ 282</b>	▲ 207
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 17	<b>613</b>	+630
その他	11	<b>7</b>	▲ 5
現金及び現金同等物の増減額	▲ 81	<b>338</b>	+419
現金及び現金同等物の期末残高	264	<b>602</b>	+338
減価償却費	201	190	▲ 10
設備投資	336	427	+91
研究開発費	138	141	+3

■ 設備投資 セラコン新機台、バイオ工場リニューアル、総合研究所リニューアル

# 決算サマリー | セグメント別

(億円)

	売上高		営業利益			直近予想 (23/02)
	21年度	22年度	21年度	22年度	増減	
フィルム・機能マテリアル	1,703	<b>1,700</b>	199	<b>46</b>	▲ 153	52
モビリティ	447	<b>493</b>	▲ 18	<b>▲ 45</b>	▲ 27	▲ 40
生活・環境	1,143	<b>1,299</b>	35	<b>30</b>	▲ 5	25
ライフサイエンス	350	<b>381</b>	87	<b>92</b>	+6	94
不動産・その他	114	<b>126</b>	22	<b>22</b>	▲ 0	22
消去・全社	-	-	▲ 40	<b>▲ 45</b>	▲ 4	▲ 43
合計	3,757	<b>3,999</b>	284	<b>101</b>	▲ 184	110

(億円)

	21年度			22年度			増減		直近予想 (23/02)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率	
売上高	859	844	1,703	867	833	1,700	▲ 3	▲ 0.2%	1,710
営業利益	122	77	199	42	4	46	▲ 153	▲ 76.7%	52
(率)	14.2%	9.1%	11.7%	4.9%	0.5%	2.7%	-	-	3.0%

## 包装用フィルム

- 原燃料価格高騰に対し、製品価格の改定が追いつかず。さらに、年度後半は、荷動きが鈍化

## 工業用フィルム

- 原燃料価格高騰に加えて、セラミックコンデンサ用離型フィルムなどの需要が減退

## 機能マテリアル

- 工業用接着剤“バイロン”は、中国のゼロコロナ政策の影響を受け、販売減少

(億円)

	21年度			22年度			増減		直近予想 (23/02)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率	
売上高	216	232	447	241	252	493	+46	+10.3%	510
営業利益	▲ 9	▲ 9	▲ 18	▲ 20	▲ 25	▲ 45	▲ 27	-	▲ 40
(率)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

## エンジニアリングプラスチック

- 国内は、原燃料価格高騰に対し、製品価格の改定が追いつかず
- 海外は、原料価格・物流費の高騰に対し、製品価格改定を進めるも、海外加工場対応費用が増加

## エアバッグ用基布

- 製品価格の改定を進めるも、原糸などの原料購入価格の上昇により、収益改善に至らず

(億円)

	21年度			22年度			増減		直近予想 (23/02)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率	
売上高	547	596	1,143	646	653	1,299	+156	+13.6%	1,270
営業利益	19	16	35	12	18	30	▲ 5	▲ 13.2%	25
(率)	3.4%	2.7%	3.0%	1.9%	2.7%	2.3%	-	-	2.0%

## 環境ソリューション

- 世界的なEV化に伴うリチウムイオン電池（LIB）の需要拡大を受けて、LIBセパレータ工場向けのVOC回収装置、交換エレメントの販売が堅調

## 不織布マテリアル

- 原燃料価格高騰に対し、製品価格の改定が追いつかず

## 高機能ファイバー

- “ザイロン”は、建築補強用途、自転車タイヤ用途、“イザナス”は、釣糸用途を中心に販売が堅調

## 衣料繊維

- 円安の影響を受け、海外仕入れコストが上昇するも、中東向け特化生地は輸出採算が好転

(億円)

	21年度			22年度			増減		直近予想 (23/02)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	率	
売上高	163	187	350	193	188	381	+31	+8.9%	390
営業利益	46	40	87	54	38	92	+6	+6.4%	94
(率)	28.2%	21.7%	24.7%	28.0%	20.2%	24.2%	-	-	24.1%

## バイオ

- PCR検査用試薬は、第4四半期に販売減少
- 診断薬用、および遺伝子検査用試薬の原料酵素は、海外向けの販売が堅調

## メディカル

- 人工腎臓用中空糸膜の販売は堅調も、原燃料価格高騰の影響を受ける

## 医薬

- FDA対応の費用が高むも、市販製剤の生産・出荷を順次再開し、販売回復

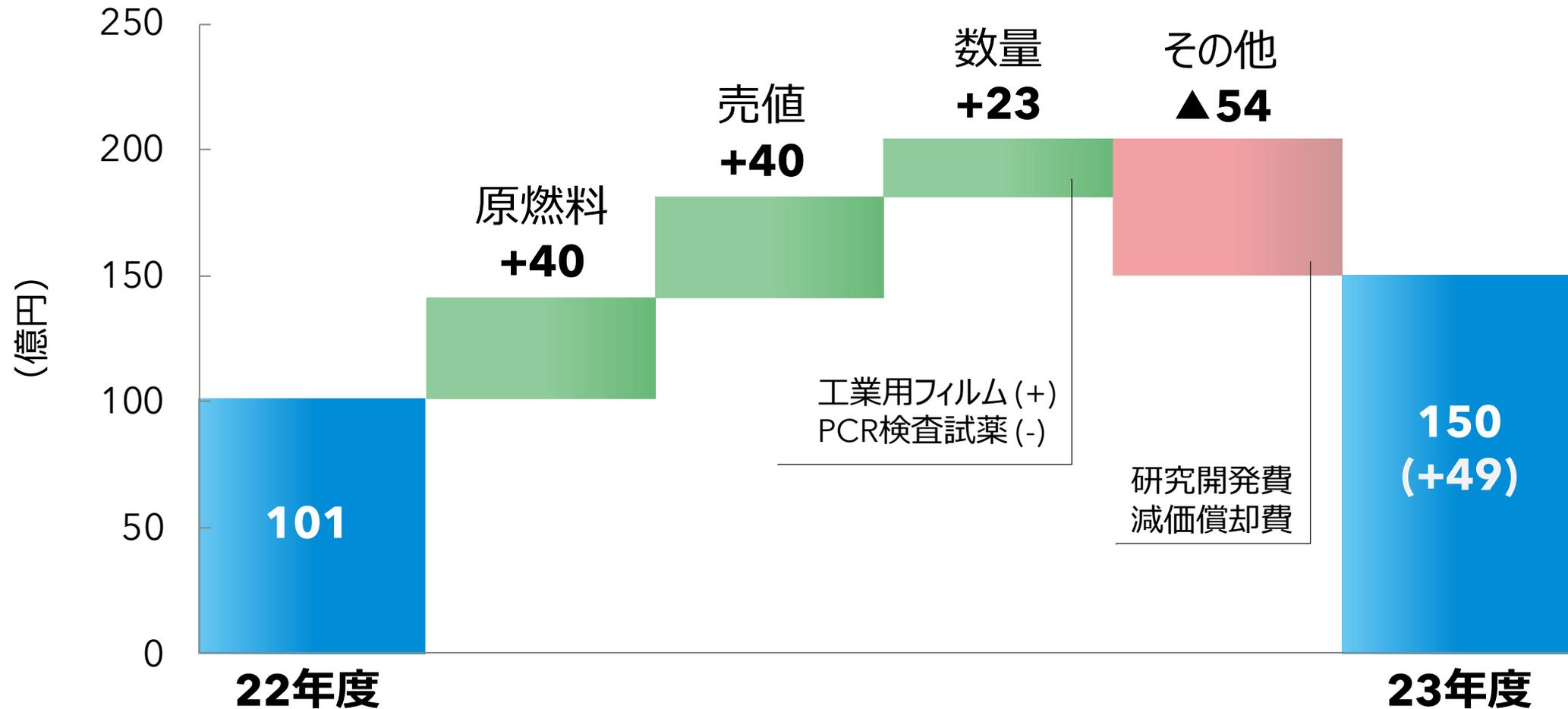
# 2023年度 業績見通し

工業用フィルムの市況回復に加え、一層の価格改定、要改善事業の対策を進めることにより、  
営業利益 150 億円（前期比約 1.5 倍）、当期純利益 40 億円を予想

	22年度	23年度	増減	
	実績	見通し	金額	率
売上高	3,999	<b>4,300</b>	+301	+7.5%
営業利益	101	<b>150</b>	+49	+49.1%
(率)	2.5%	<b>3.5%</b>	-	-
経常利益	66	<b>110</b>	+44	+66.9%
特別損益	▲ 60	▲ <b>20</b>	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	▲ 7	<b>40</b>	+47	-
EBITDA	291	<b>367</b>	+76	+26.1%
EPS (円)	▲ 7.4	<b>45.0</b>	-	-
減価償却費	190	<b>217</b>	+27	+13.9%
設備投資	427	<b>500</b>	+73	+17.0%
研究開発費	141	<b>160</b>	+19	+13.4%

- 設備投資 バイオ工場リニューアル・増産、セラコン新機台、重合設備更新
- 配当は、一株あたり 40 円（予想）

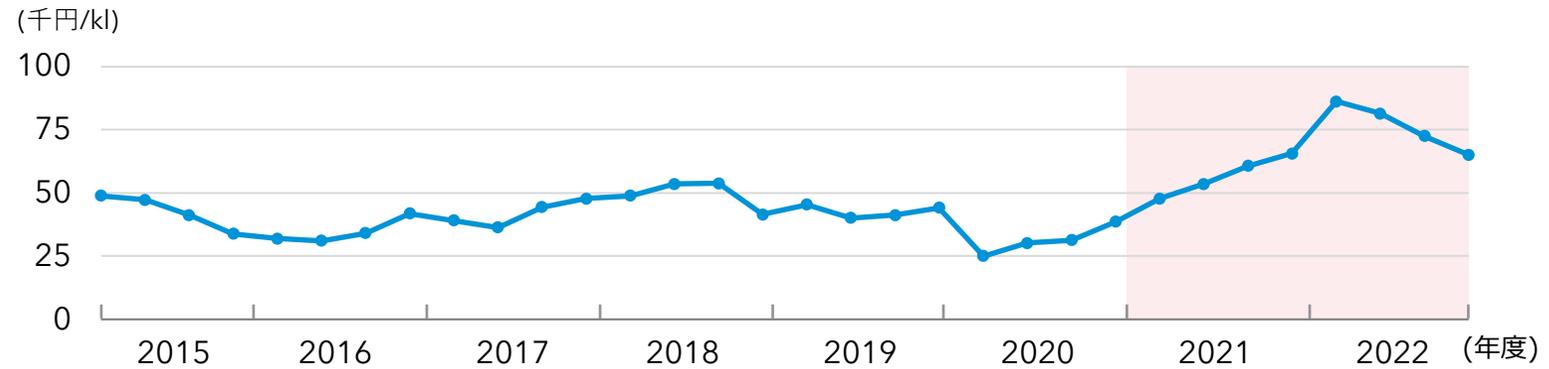
# 営業利益の増減要因



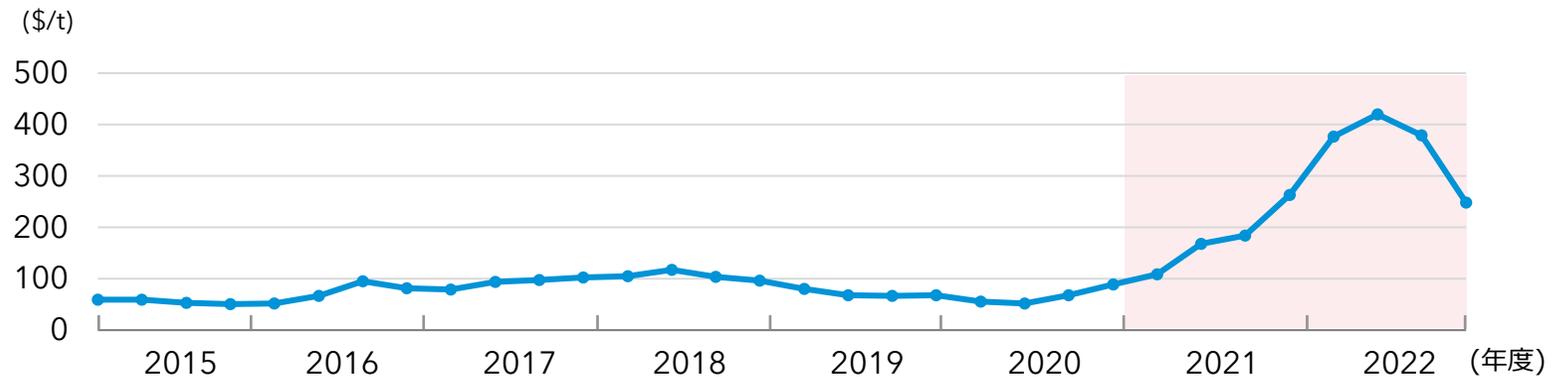
	22年度	23年度
為替レート (円/US\$)	135	133
国産ナフサ (千円/kl)	77	65

# (参考) 原燃料価格高騰に対する価格改定

## ■ 国産ナフサ価格



## ■ 石炭価格 (豪州一般炭市況価格)



## ■ 当社「原燃料」「売値」影響 (前年度比増減)

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
原燃料 (A)	+71	+41	▲ 37	▲ 45	+29	+56	▲ 112	▲ 170
売値 (B)	▲ 61	▲ 25	+16	+12	▲ 5	▲ 38	+47	+119
スプレッド (A+B)	+10	+16	▲ 21	▲ 33	+24	+18	▲ 65	▲ 51

(億円)

## セラコン用離型フィルム

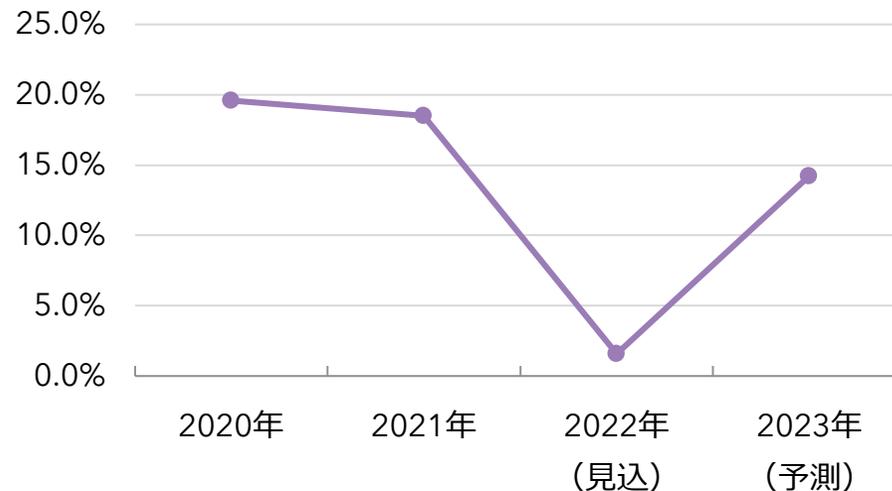
### 市場

- ・2022年 成長率鈍化
- ・2023年 前年度比 10% 以上の増加を予測

#### 23年度

- コーター 1, 2 号機 フル稼働
- 市況回復に合せ、顧客の増産体制に対応

### セラコン用離型フィルム 世界出荷量 (前年比)



矢野経済研究所調べ

## 液晶偏光子保護フィルム“コスモシャインSRF”

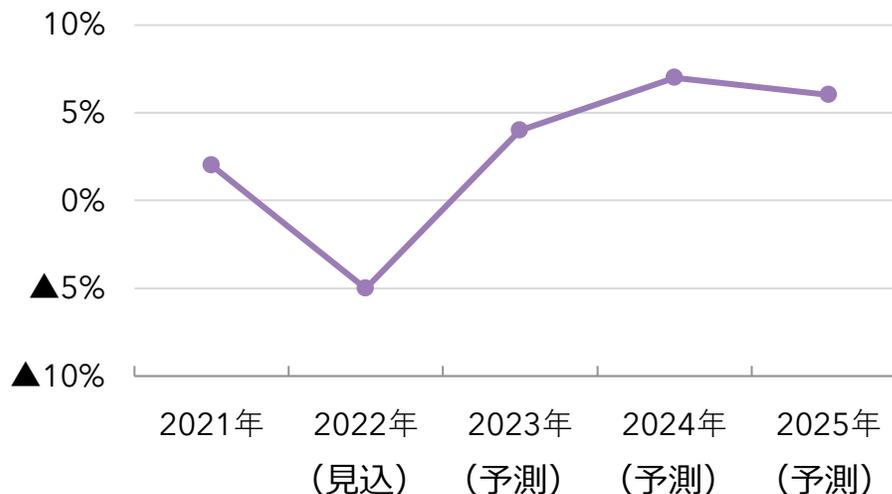
### テレビ市場

- ・2022年 面積ベースで前年比 5% 減  
⇒ 当社は数%減に留まる
- ・2023年 面積ベースで前年比 4% 増と予測

#### 23年度

- 1~3 号機 フル稼働
- 顧客の増産体制に対応

### テレビ世界市場 出荷面積 (前年比)



## 22年度実績（旧セグメント）

	売上高	営業利益
	22年度実績	22年度実績
フィルム・機能マテリアル	1,700	46
モビリティ	493	▲ 45
生活・環境	1,299	30
ライフサイエンス	381	92
不動産・その他	126	22
消去・全社	-	▲ 45
合計	3,999	101

## 23年度見通し（新セグメント）

(億円)

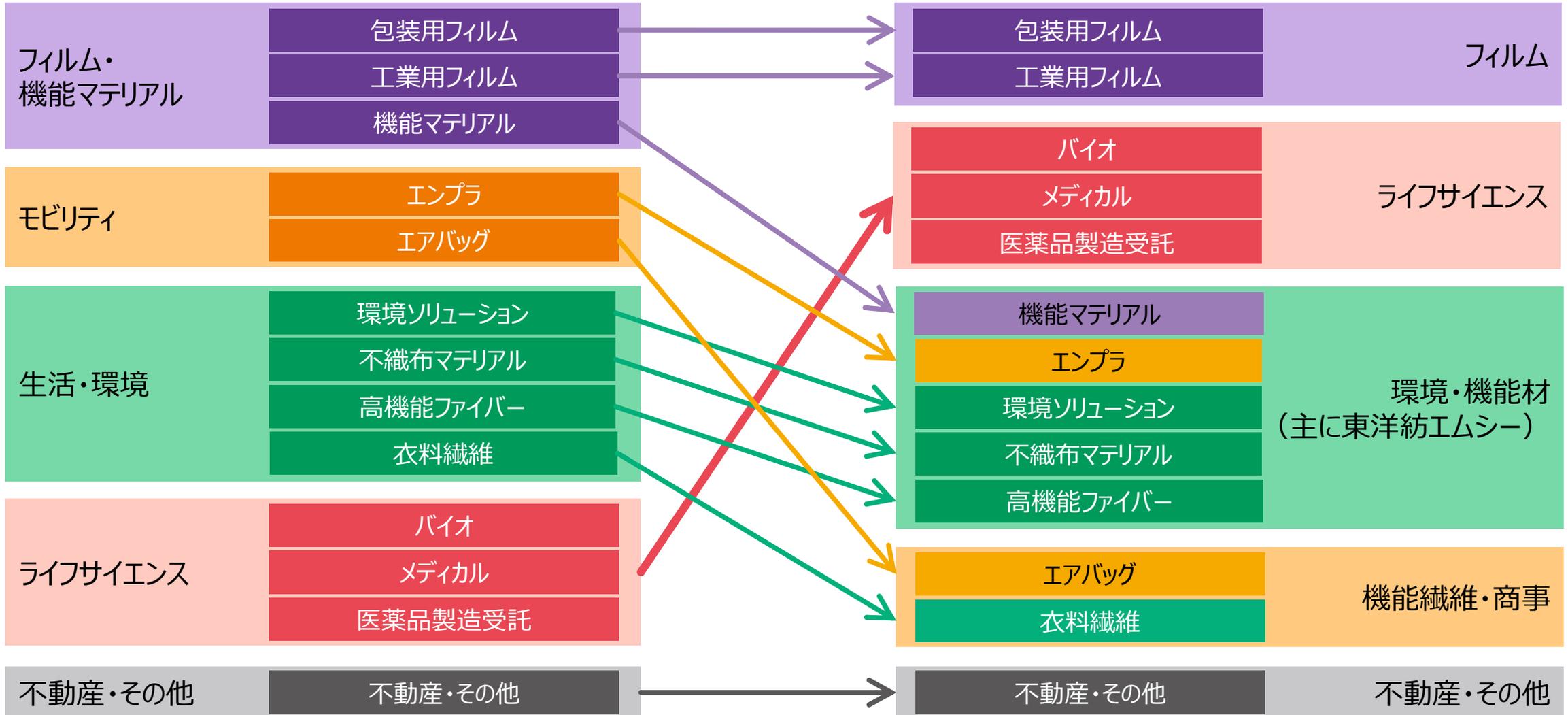
	売上高	営業利益	
	23年度見通し	22年度実績	23年度見通し
フィルム	<b>1,670</b>	16	<b>88</b>
ライフサイエンス	<b>350</b>	92	<b>52</b>
環境・機能材	<b>1,350</b>	43	<b>58</b>
機能繊維・商事	<b>800</b>	▲ 27	▲ <b>15</b>
不動産・その他	<b>130</b>	22	<b>22</b>
消去・全社	-	▲ 45	▲ <b>55</b>
合計	<b>4,300</b>	101	<b>150</b>

- ・新セグメントでの22年度営業利益の実績は、監査前の暫定値です。今後、変更になる可能性があります。
- ・新セグメントでの22年度売上高の実績は、第1四半期決算発表時に公表予定です。
- ・新旧セグメントの対比については、次ページをご覧ください。

# (参考) セグメント変更内容

～2022年度

2023年度～



<p>フィルム</p>	<p>■ <b>収益の柱。収益回復</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・包装用フィルム：一層の価格改定によるマージン改善。新ライン・新製品の本格立ち上げ</li> <li>・セラコン用離型フィルム：市況回復に合わせ、顧客の増産体制に対応。新ライン建設</li> <li>・液晶偏光子保護フィルム：顧客の増産体制に対応。価格改定</li> </ul>
<p>ライフサイエンス</p>	<p>■ <b>ポストコロナ収益減の挽回と成長策実行</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオ：PCR検査試薬は売上減少も、海外向け原料酵素拡販。リニューアル増産投資</li> <li>・メディカル：人工腎臓用中空糸膜は、需要増への対応と一貫生産工場建設。 急性血液浄化市場、抗体医薬製造プロセス市場へ上市・新商品投入</li> <li>・医薬品製造受託：FDA・WL対応・GMP体制。販売回復と収益改善</li> </ul>
<p>環境・機能材</p>	<p>■ <b>東洋紡エムシー：立ち上げ（機能別組織他）。変革プランの実行</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境ソリューション：LIBs向けVOC回収装置の海外加速。FO・BC膜の新用途立ち上げ</li> <li>・工業用接着剤：一層の価格改定と数量回復。エレクトロニクス向けの新製品開発</li> <li>・エンジニアリングプラスチック：品質保証体制の確立。一層の価格改定と数量回復</li> </ul>
<p>機能繊維・商事</p>	<p>■ <b>要改善事業の対策実行</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エアバッグ用基布：収益改善の為に一層の価格改定を実施。 新原糸工場（タイ）の商業生産開始</li> <li>・衣料繊維：3工場の集約と海外拠点一体での事業運営による収益回復</li> </ul>

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

**TOYOBO**  
Beyond Horizons

補足

# セグメント別情報

**TOYOBO**

(億円)

売上高	21年度					22年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
フィルム・機能マテリアル	457	402	414	430	1,703	453	414	416	417	1,700
モビリティ	111	105	106	126	447	118	123	131	121	493
生活・環境	277	270	277	319	1,143	321	325	299	353	1,299
ライフサイエンス	75	89	82	104	350	87	106	100	88	381
不動産・その他	26	27	28	33	114	31	33	30	32	126
消去・全社	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	946	892	907	1,012	3,757	1,010	1,001	976	1,012	3,999

営業利益	21年度					22年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
フィルム・機能マテリアル	68	54	43	33	199	35	7	3	1	46
モビリティ	▲ 5	▲ 4	▲ 6	▲ 3	▲ 18	▲ 8	▲ 13	▲ 9	▲ 15	▲ 45
生活・環境	15	4	8	8	35	3	9	4	14	30
ライフサイエンス	19	28	18	23	87	21	33	26	12	92
不動産・その他	4	7	5	6	22	3	6	7	5	22
消去・全社	▲ 8	▲ 10	▲ 11	▲ 11	▲ 40	▲ 9	▲ 11	▲ 13	▲ 13	▲ 45
合計	92	79	58	55	284	46	33	17	5	101

# 主な指標の推移

TOYOBO

(億円)

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	実績					見通し
売上高	3,367	3,396	3,374	3,757	3,999	4,300
営業利益	217	228	267	284	101	150
(率)	6.5%	6.7%	7.9%	7.6%	2.5%	3.5%
EBITDA <sup>*1</sup>	375	398	458	485	291	367
EPS (円)	▲ 6.8	155.1	47.3	144.8	▲ 7.4	45.0
ROE <sup>*2</sup>	-	7.8%	2.3%	6.8%	-	-
ROIC <sup>*3</sup>	4.4%	4.5%	5.0%	5.1%	1.7%	-
減価償却費	158	170	191	201	190	217
設備投資	255	364	233	336	427	500
研究開発費	110	117	127	138	141	160
有利子負債	1,648	1,751	1,870	1,912	2,294	-
D/Eレシオ	0.93	0.98	1.01	0.98	1.21	-
Net Debt / EBITDA倍率 <sup>*4</sup>	3.8	3.8	3.3	3.4	5.8	-

\*1 営業利益+減価償却費 (のれんを含む)

\*2 当期純利益÷期首・期末平均自己資本

\*3 NOPAT÷(有利子負債+純資産)

\*4 (有利子負債 - 現預金) <期末> / EBITDA